

認知症の創薬研究強化の必要性

第1回認知症施策推進関係者会議

2024.3.28

東京大学大学院医学系研究科神経病理学
東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室
国立精神・神経医療研究センター神経研究所

岩坪 威

認知症(アルツハイマー病)治療薬開発は従来より日本が世界をリード

- 1999年 症候改善薬としてアリセプト(ドネペジル)が上市



- 2023年 疾患修飾薬(アルツハイマー病の発症メカニズムに直接働く治療薬)としてレケンビ(レカネマブ)が世界に先駆けて実用化



- しかしアミロイドβ抗体薬ドナネマブなど海外後続薬も猛追
核酸医薬、RNAi創薬など新規モダリティ薬剤の開発も世界で急速に進捗しつつある競争的な状況が激化
- 神経科学と認知症学研究の豊かな実績にもとづき、日本からさらなる認知症創薬を！

本邦発の認知症治療薬創薬に向けた課題と対応

- 「認知症と向き合う幸齢社会実現会議」でも「治療薬開発の推進」を岸田首相が指示
- 認知症創薬推進のために、AMED認知症研究開発事業でも基礎研究→臨床研究、創薬研究など各プロジェクトの強化が始まったところ
- しかし本邦の認知症研究費は依然米国（2024年度38.7億ドル）の1-2%規模
- 超早期の診断を可能とする「バイオマーカー研究」、新規治療薬の効果をいち早く検証するための「臨床研究・治験環境（プラットフォーム）の整備」などをさらに拡充することも急務
- より良い薬を生み出すことは、本人・家族の意思を尊重した、より良い医療・介護提供ができる体制・社会づくりの整備と一体となって、共生社会の実現推進につながる
- 世界をリードできる日本の認知症創薬振興をめざして施策の充実を!

